

安全ニュース

2019年2月号

2月

平成31年2月1日

社

CHIYODA

安全推進室発行
(No.344号)

平成31年1月発生事故

- 被害事故 1件 (株)鈴友 1/25(金)午前10:50頃発生

国道148号線を走行中、対向車線を走行中の相手方乗用車が、道路左側の残雪に接触したはずみでセンター線を越え、当方車両の右側面に衝突したもの。

※ドライブレコーダーの画像により、「被害事故」であることが証明された。

「年末・年始交通安全キャンペーン」終了

昨年12月10日から1月10日までの1ヶ月間実施した「年末・年始交通安全キャンペーン」が終了した。多くの皆様にご協力いただいたが、キャンペーン期間中に、残念ながら1件の構内事故が発生した。同種事案の再発を防止し、更なる輸送品質の向上に努められたい。

なお、本キャンペーンの実施結果報告が未提出の各社事務担当者の方は速やかな提出をお願いしたい。



▲安全ワッペン



▲のぼり旗



▲キャブマスク



▲立看板

渋滞時こそ「慎重な運転」を！

渋滞中の車はノロノロと低速で動いたり、長い間停止することもあるため危険は少ないと考えがちである。

しかし、つい漫然運転となりブレーキから足が離れたり、不用意にアクセルを踏み込み、前車に追突するなど、事故の危険は潜んでいる。なかには停止中の車から降りて積荷の点検をしているドライバーを見かけることもあるが、運転席から離れる勝手に車が動き出し事故を招くおそれがある。

渋滞のときこそ、より慎重な運転を心がけ、「つまらない事故」を防止しよう！

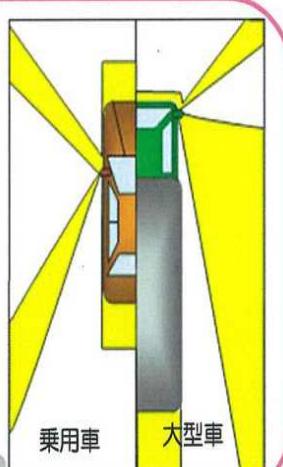


運転席から見えない「死角」に注意を！

自動車には死角があります

死角（見えない部分）には歩行者や自転車が隠れているかもしれません（右図）。ミラーに加え、目視で安全を確認しましょう。※■の部分が死角です。

また右折、左折する時、後退する時も、周りの安全を確認しましょう。



「低温やけど」に注意！



真冬のこの時期は、こたつやホットカーペット、カイロなどの暖房器具が活躍し、心地よい暖かさを提供してくれる。その反面、その熱が体の同じ場所にあたり続けると、低温やけどになるおそれがある。低温やけどを防ぐためには、カイロを直接肌に触れさせない、ヒーターや電気ストーブ等の直近で寝入らない、といったことに注意しよう。

私の交通安全

千代田運輸(株) 小林 武史さん(陸送)

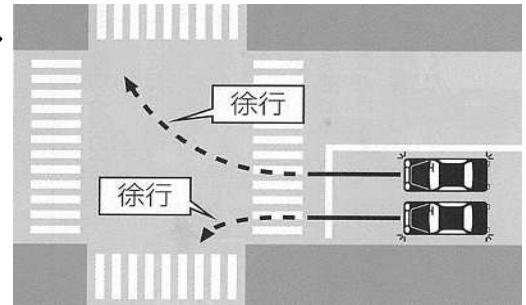


- Q 安全運転の心構えを教えてください。
- A 当たり前のことですが、構内ルールも含め違反をしないこと。日野ブランドを意識して運転しています。
- Q 座右の銘(好きな言葉)を教えてください。
- A 「全力は美なり」中学時代の校長先生の口癖でした。
- Q 趣味を教えてください。
- A 「バイク」です。子供の頃からモトクロスを中心にモータースポーツに熱中していました。鈴鹿の4耐(予選)に出場したことがあります。
- Q 最近、嬉しかったことや悲しかったことはありますか。
- A 嬉しいというか、びっくりしたのは2年前に、宝くじで「大当たり」したことです。友人を数人誘って旅行し、全て使い切りました。良い思い出です。
- Q 最後に、同僚・後輩に対してひと言お願いします。
- A この仕事は健康が基本だと思います。のために睡眠は大事ですし、規則正しい生活をすることが安全運転につながると思っています。事故のない明るい職場づくりのため、みんなで頑張りましょう。

交差点の右左折時は「徐行」が基本

交差点では、他の車や歩行者、自転車などによく注意して、できる限り安全な方法と速度で走行しなければならない。

特に右左折時には、徐行が義務づけられている。そのため、横断歩道の手前で余裕を持って停止できるように十分スピードを落として進行し、歩行者や自転車が横断してきた場合は、いつでも止まれるよう「徐行」しよう。



雪道では歩道の歩行者・自転車にも注意を！

雪道で滑りやすいのは、車だけでなく、歩行者や自転車も同じである。雪道で滑った歩行者や自転車が転倒し、車道に飛び出してくれるおそれがあるため、側方通過時には十分な側方間隔を取るとともに、スピードを落として走行しよう。



また、早朝や夕方は路面に雪が積もっていないことも凍結しているおそれがあるので、決して「急」のつく運転操作はやめよう！

故事・ことわざから学ぶ

畠の上の怪我 (たたみのうえのけが)

【意味】安全なはずの畠の上でさえ、怪我をすることがあるように、どこで災難に遭うか分からないというたとえ。

【解説】交通量の少ない直進道路や人通りのない田舎道などを運転していると、こんな場所で、交通事故を起こす訳がないと思いつがちである。しかし、交通事故はどんなに安全と思われる場所や状況でも起きている。交通状況は刻一刻と変化している。運転者は、そのことを常に意識して運転することが大切である。



編集後記

亥年も早や2月に入りました。巷では、4月1日に発表される「新元号」についての話題をよく耳にするようになりました。時代は変わっても我々のやるべきことは、ただ一つ「安全・確実」を続けることです。日々、愚直に「安全・確実」な輸送を実現し、お客様の期待と信頼にお応えしましょう。